



【今年で開設6周年！京都測定所をよろしくお願いします！】

会員のみなさま、ご支援くださっているみなさま。

2018年5月で、当測定所も開設6周年を迎えることになりました。

日々、測定にたずさわって感じるのは、まだまだ汚染が続いているなという実感です。

去年測定した測定結果を見ても、干し柿がセシウム合算で約55ベクレル/kg、大豆が約30ベクレル/kg、静岡県浜松市の土壌ですら約23ベクレル/kgという汚染がありました。

地域の測定所では、福島県産以外の玄米や胚芽米から、微量の放射性セシウムが検出されたという情報も寄せられています。

確かに、去年の秋に行った『お米測定プロジェクト』でも放射能を検出したものはなく、食品の汚染度は低くなってきているとは感じますが、油断できません。今年は、いよいよ8000ベクレル/kg以下の汚染土壌のリサイクルが本格化し、汚染のばらまきが始まります。食品の放射能検査の縮小も進められようとしています。むしろこれから、低線量・長期被曝の影響が深刻化していくのではないかとこの予感すらしています。

原発の怖さ、事故への不安、国民世論は一貫して原発反対が多数ですが、日本政府・経済界は再稼働と原発輸出をあきらめないようです。広島高裁判決や関電の老朽原発廃炉など、良い方向も見えてきましたが、まだまだこれからです。

だからこそ、汚染の事実を測り続けること、記録に残すこと、知らせることが、京都・市民放射能測定所の大切な役割だと考えています。

ぜひ、よりいっそうのご支援をお願いいたします。

2018年1月17日

京都・市民放射能測定所 事務局長 佐藤和利

会報第10号の内容

【2面】11月4日第5回測定所まつり『放射線の人体への影響を考える』報告

【3～4面】落合栄一郎さん、山田耕作さんの講演。本行忠志さんのレポートを紹介

【5面】気になる測定結果 ①九州産乾燥原木しいたけ ②福島産大豆

【6面】新米測定プロジェクトの報告 測定所からのお願い

11・4 第5回測定所まつりの報告です♪

11月4日（土）キャンパスプラザ京都にて、落合栄一郎さん（カナダ在住、生物無機化学者）、山田耕作さん（京都大学名誉教授）のお二人をお迎えして「放射線の人体への影響を考える」をテーマに第5回測定所まつりを行いました。

約80名の方の参加があり、また原発事故避難者の方のお話や、多くの研究者の方の参加と発言があり、大変盛り上がりました。

落合さんの『21世紀の核問題』講演では、原爆開発から原発へと核開発へと進む過程で、大変な被曝被害が出ていること、核は人類を滅ぼすことがよくわかりました。

山田さんの「子どもの被曝に関する日本学術会議報告書を批判する」講演も、科学者の良心とは何かを鋭く問う内容でした。



【感想アンケートの一部を紹介します。】

★落合栄一郎さんの講演はいかがでしたか？

「核が人間と共存出来ないものであり、それにもかかわらず、世界の大国は犯罪的にこれを使用していることが改めて認識できました。私たちは反核の連動をもっと強く進める義務があります。」

「放射線被曝が人体にもたらす影響はとても大きくて、被曝量が大きければ大きいほど、ありとあらゆる病気のリスク比例して大きくなると聞き、またエネルギーに換算すればとても小さなもののはずなのに、人が死ぬことがあるという事実をはじめて知って、改めて放射線というものがどれだけ恐ろしいものかを実感しました。」

「放射線の人体への影響を基本から話して下さりとても分かりやすかった。」

※時間不足、もっと深く内容を知りたかったなどのご意見もたくさん頂きました。

★山田耕作さんの講演はいかがでしたか？

「甲状腺がんの発生と原発の距離など分かりやすかったです。キモとなる所を時間をかけていただくと更に分かりやすかったかもしれません。」

「放射性物質はガンだけでなく細胞の損傷を起こし、あらゆる病気を引き起こすものであることがわかりました。日本学術会議がきわめて非科学的な報告を出すことの罪深さは計り知れません。この事が一般的には知られていないのは大問題だとおもいました。」

「チェルノブイリ膀胱炎のデータには興味をもちました。」

★避難者のお話はいかがでしたか？

「避難者（原発賠償訴訟裁判原告）の皆さんのお話は伺うたびに胸に迫るものがあります。（原告が作成した手記の）本も美しい表紙を見るだけで皆さんの想いが伝わりますし、内容は涙なしには読めなません。3月15日の判決が公正であることを祈ります。」

第5回測定所まつり 講演していただいた内容

【落合栄一郎さん】（カナダ在住 生物無機化学者）

放射線は見えない、臭わない、聞こえない、感じられないが、健康障害を引き起こします。

広島や長崎の原爆被害はもちろん、鉱山病（ラドンによる肺がん）、ウラン精錬場、核実験場（兵士と住民のがん発症率の増加）、などです。原発も通常運転時に放出されるトリチウムの影響などが大きく、アメリカの乳がん分布と原発分布が重なります。核施設（核兵器製造工場や原発）の事故は何度も起き、住民の犠牲が増えています。劣化ウラン兵器による被害もあります。医療で使われることの影響も。

福島原発事故のあと、心筋梗塞死やアルツハイマー病死などに増加が見られます。アルツハイマー病死はチェルノブイリでも見られました。

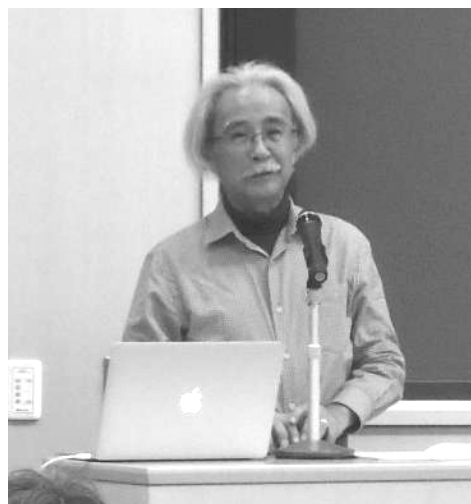
（そのほか、たくさんの方の健康影響について紹介いただきました。）

低線量では内部被曝が重要です。外部被曝は透過力のあるガンマ線などが主ですが、内部被曝は全ての放射線が影響、特にアルファ線、ベータ線の影響が大きく、通常シーベルトで表現される値の数百倍の影響を受けます。

放射線の危険性は、小さなエネルギーでも致死量になることです。1個の放射線粒子は、理論上2万個の化合物を破壊します。少なく見積もっても2000個の化合物を破壊します。生命は、こうした破壊力には抵抗できません。

甚大な健康障害（特に脳障害）を引き起こす放射性物質をつくり出す核産業をいつまで続けるのか？人類の自殺行為です。

（※落合さんの熱弁で、最後は時間不足になってしまいました。特に後半部分をもっと詳しく聞きたかったという感想が多かったです。）



【山田耕作さん】（京都大学名誉教授）

日本学術会議は2017年7月28日、臨床医学委員会放射線防護・リスクマネジメント分科会の報告を承認し、9月1日に発表しました。

報告の内容は、福島原発事故による被曝の影響を否定し、がんは増えないとか、健康被害を否定するものです。事故による放射能放出量も過少評価、内部被曝の影響も過少評価したものです。

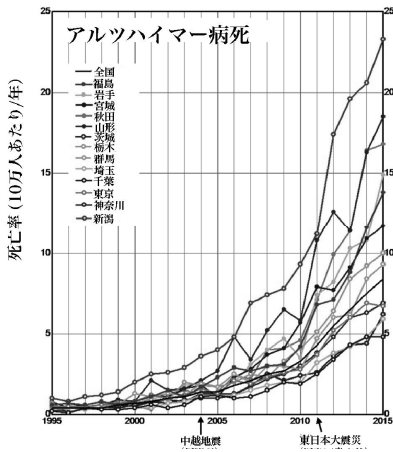
そもそもリスクマネジメント分科会の委員長は佐々木康人氏（原爆・原発訴訟で国側証人をつとめた人）で、副委員長は山下俊一氏（健康影響を一貫して否定）です。顔ぶれを見ただけで何を言うかわかるような人達ですが。



汚染の現実と被曝の危険性を全く無視することは、単なる過ちではなく被災者を切り捨て、未来を担う子どもたちの健康と命を奪うこととなります。こんな報告は撤回されるべきです。学術会議報告は科学者の総意を正しく反映し、人類に正しい選択をもたらすものでなければなりません。

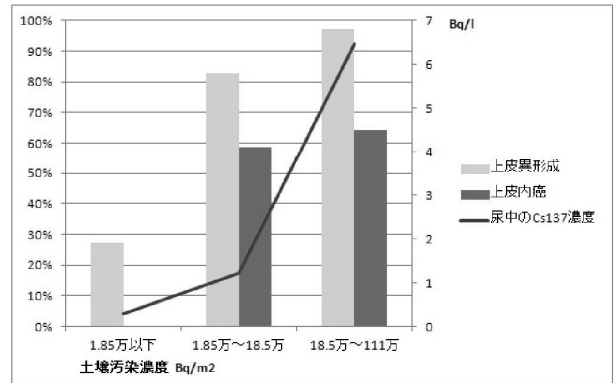
福島原発事故後の周産期死亡率の上昇や、福島県民健康調査でも2巡目で2年以内に小児甲状腺がんが発見され、しかも線量の高い所で多く見ついているという分析結果も出ています。

チェルノブイリ膀胱炎も、線量の高い所ほど発症が大です。心電図異常もそうです。チェルノブイリと同様の被曝被害の拡大が危惧されます。健康調査を地域的にも、大人を含めて年齢的にも拡大し、尿や血液検査も含めて公表すべきです。費用は国が責任をもって行うべきです。



(7) 原発
(a) 福島原発事故とアルツハイマー病死

チェルノブイリ膀胱炎



【本行忠志さん】(大阪大学大学院・放射線生物学教室教授)

チェルノブイリは被曝量が多く、福島は小さいと言われますが、チェルノブイリ事故の被曝量はどう見積もっても、ほとんどが200ミリグレイ(200ミリシーベルト)未満です。

ウクライナの小児甲状腺がん患者(手術時14歳以下)の53%は100ミリグレイ(100ミリシーベルト)以下の低線量被曝でした。15%強は10ミリグレイ(10ミリシーベルト)未満で発症しています。低線量被曝だから大丈夫という論理は成り立たないと考えます。

また、放射線感受性には個人差があります。

アルコールに弱い人がいるように、放射線に非常に弱い人がいます。(遺伝子も大きな要素)だから病気になるしきい値は個人個人で差があります。マウスの実験例では、同じ兄弟でも8匹のうち1匹が、ヨウ素131の甲状腺への取り込みが数倍も大きかった結果もあります。(他にも貴重な実験例を本行さんに紹介していただきました。)

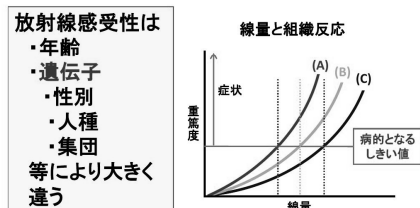
放射線障害で最も恐れるのは、それが一瞬の被曝であっても細胞・遺伝子などに起きた傷が残り、将来のがんや遺伝的影響に結びつくことです。内部被曝の場合、放射線を出すもの自体が長期的に体内に存在しますので、注意しすぎることはありません。



放射線感受性には個人差がある

アルコールに弱い人がいるように、放射線に非常に弱い人がいる。

例・B, Cは平気でもAには影響が出る



しきい値(しきい線量)は個人個人で異なる



気になる測定結果

【九州産乾燥原木椎茸】

2017年7月測定

判定	核種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ピーク検出
検出	Cs137	3.15Bq/kg	±0.99Bq/kg	24.3%	1.09Bq/kg	あり
下限以下	Cs134	—	—	—	1.00Bq/kg	無し

昨年の7月に測定した九州産乾燥原木椎茸から約3ベクレルのセシウム137が検出されました。

セシウム134の検出はありませんでした。

半減期が30年のセシウム137と比べて半減期が2年のセシウム134は、福島第一原発事故の影響だとしても十分の一まで減っており、検出するのが非常に難しくなっています。なので、以前の核実験由来やチェルノブイリ原発事故の影響と見分けが付きにくくなっています。

この乾燥椎茸に関しては、原木が東北産では無く九州のものを使用しているなら、過去の核実験による汚染が原木にあり、椎茸に移行したと思われます。前号の会報でお知らせしましたが、30年以上前（チェルノブイリ原発事故以前）のしまってあった火鉢の灰から約60ベクレルのセシウム137の検出例もありましたので、半減期30年のセシウム137の恐ろしさを感じた測定結果でした。

福島第一原発事故から6年が経ちました。人々の記憶から風化されようとしています、今の子供達が大人になっても事故による放射能汚染は残っています。

流通品の検出例は確かに減っていますが、大量に放出された放射性物質の中でも半減期の長いものは薄まって広がったり、特定の場所に集中していたり、条件は様々でしょうが確実にどこかに存在していることを忘れてはいけません。

【福島県産大豆】

2017年8月測定

判定	核種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ピーク検出
検出	Cs137	26.3Bq/kg	±5.9Bq/kg	9.5%	2.74Bq/kg	あり
検出	Cs134	4.75Bq/kg	±2.28Bq/kg	44.2%	2.53Bq/kg	無し

もう一つ気になる測定結果がありました。この福島県産の大豆です。

大豆は検出例の多い食材ですが、炊いたりするだけで無く、納豆や豆腐、油揚げなど、大豆加工品を日常食するヘルシーな日本の生活習慣に合った食材だと思います。

今回の測定結果では、セシウム134のピーク検出までは至りませんでしたが、134の放射能濃度は検出されています。

この大豆の気になるところは、大豆内部に放射能が取り込まれていた可能性はありますが、もう1つの可能性として、大豆を乾燥させる過程で外干しをしたために空気中の放射性物質が吸着し、元々の放射能濃度よりもさらに汚染が高くなったという推測もできるからです。

福島第一原発事故は収束していないし放射能汚染はまだまだ続くことを改めて思い知らされ、測定を継続することの意義を感じた測定結果でした（くっすん）

測定所全体ミーティング

★毎月1回開催しています。次回は、
2月11日（日）15時～16時30分
場所は丹波橋測定室です。関心のある方
の参加、大歓迎です。

【資料閲覧のおすすめ】

丹波橋測定室では、福島県の新聞の記事を
スクラップしています。
放射能関連の書籍や映像等も閲覧できます
ので、ぜひご利用ください。

『新米測定プロジェクト』の報告

昨年の秋、他地域の測定所から、福島県産以外の玄米や、胚芽米から微量の放射性セシウムが検出されたという情報が寄せられました。

お米は毎日食べる主食ですので、非常に気になる話です。

そこで昨年10月～12月にかけて、お米の汚染についてデータを収集するために、当測定所主催の企画として『新米測定プロジェクト』を実施いたしました。

会員の方や測定所スタッフの協力で、これまでに8検体を提供していただき、測定しました。

- ①秋田県産玄米、②新潟県産白米、③広島県三次市産玄米、④宮城県産玄米、
- ⑤新潟県魚沼産白米、⑥青森県産白米、⑦もち米 国産複数原料米、
- ⑧京都南丹波産白米（キヌヒカリ）

です。

幸い今までの測定では、放射性セシウムの検出はありませんでした。

引き続き、気を緩めずに、測定していきたいと思います。（佐藤）

会員のみなさまへのお願い

京都測定所をいつもご支援いただき、スタッフ一同感謝しております。

しかし、今後も引き続き測定所の運営を続けていけるかどうかは、現状のままでは大変厳しく、みなさまからの会費と測定依頼に頼るしかありません。

会員の継続（年会費納入）を、心からお願い申し上げます。

なお、右記の口座に年会費を振り込んでいただいた方には、後日新しい会員証をお送りいたします。よろしく願いいたします。

◇年会費（会員になった日から1年間）

正会員 4千円

サポート会員 2千円

◇以下の口座に振込んでください。

・郵便振替口座

00990-8-147255 京都市民測定所

・ゆうちょ銀行

14440-6770961 京都市民測定所

（他銀行からの場合）

店名 四四八 店番 448

普通預金 0677096 京都市民測定所



京都・市民放射能測定所 事務局

〒612-0066 京都市伏見区桃山羽柴長吉中町 55-1

コーポ桃山 105 号部屋

TEL/FAX 075-622-9870

E-mail : shimin_sokutei@yahoo.co.jp

<http://nukecheck.namaste.jp/> <http://crmskyoto.exblog.jp/>